



第92期 中間報告書

2018年4月1日 > 2018年9月30日

CONTENTS

グループビジョン	1
第92期第2四半期事業活動について	2
事業別営業概況	3
トピックス	5
連結財務諸表	7
株式の概要	9
会社概要	10
株式についてのご案内	裏表紙

 三菱ガス化学株式会社

証券コード：4182



グループビジョン

「社会と分かち合える価値の創造」を
共有・希求し、持続的な成長を
実現していきます。

代表取締役社長

倉井敏磨



【中期経営計画】

MGC Advance2020

MGCグループ もっと大きな夢に！

—— 基本方針 ——

- 1 MGCグループの企業価値の向上
- 2 MGCグループを取り巻くステークホルダーからの信頼の醸成

—— 基本方針を実現するための5つの施策 ——

- ①中核事業を中心とした既存事業の収益力強化
- ②新規事業の創出と育成
- ③最適な事業ポートフォリオに向けた投資戦略の実行
- ④MGCグループ一体となった経営の推進
- ⑤持続的成長を支える〈質〉の向上

第92期第2四半期事業活動について

株主の皆様には日頃よりご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第92期第2四半期連結累計期間（2018年4月1日から2018年9月30日まで）の事業活動についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間（2018年4月1日～2018年9月30日）における世界経済は、全体としては緩やかな回復基調が続きましたが、通商問題の動向や原油価格の上昇、金融資本市場が与える影響が懸念され、先行きへの不透明感が高まりました。国内経済は、原油高や人手不足による生産・物流コストの上昇がありましたが、雇用・所得環境の改善が継続するなど、緩やかな回復の動きを見せました。

当社グループを取り巻く経営環境は、一般的に需要が堅調で、メタノール市況も高止まりで推移した一方で、原燃料価格の上昇や、これまで高い水準を維持してきたポリカーボネート、高純度インフタル酸の市況が下落基調に転じるなどの変化もみられました。

当社グループの売上高は、メタノールの市況が依然として高い水準を維持したことや、販売数量が全体として堅調に推移したことなどから、増収となりました。

営業利益は、ポリカーボネートの市況が前年同期を上回ったほか、特殊ポリカーボネートやBT材料の販売数量も増加しましたが、発泡プラスチック事業における原燃料価格の上昇や高純度インフタル酸の市況下落などにより、減益となりました。

経常利益は、海外メタノール生産会社およびエンジニアリングプラスチック関連会社に係る持分法利益が増加したことなどにより、増益となりました。

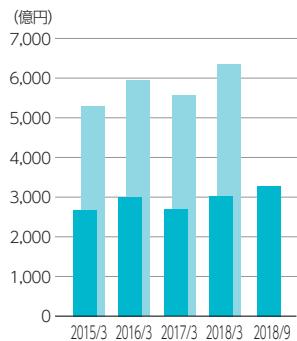
以上の結果、売上高3,283億円（前年同期比254億円増（8.4%増））、営業利益289億円（前年同期比13億円減（4.4%減））、持分法利益172億円（前年同期比67億円増（64.5%増））、経常利益465億円（前年同期比45億円増（10.8%増））、親会社株主に帰属する四半期純利益379億円（前年同期比24億円増（7.0%増））となりました。

なお、当期の中間配当金は、前期中間配当金に比べて11円増配の35円といたしました。

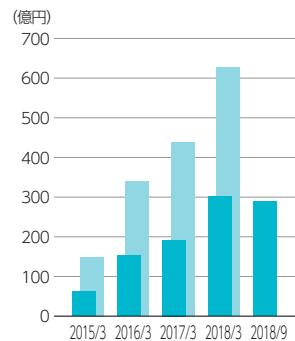
株主の皆様には引き続きご支援、ご鞭撻を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

2018年12月

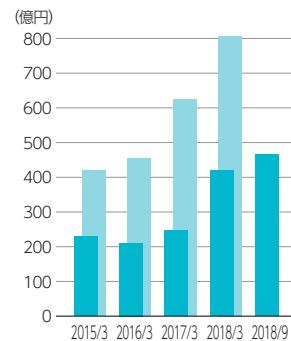
売上高



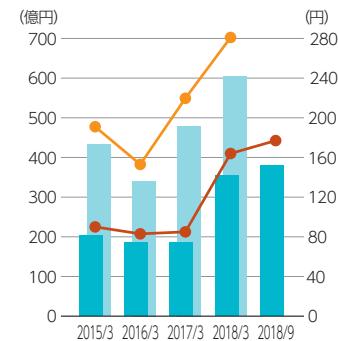
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益/ 1株当たり四半期(当期)純利益(注)



■ 第2四半期 (累計) ■ 通期 ● 1株当たり四半期純利益 ● 1株当たり当期純利益

(注) 当社は、2016年10月1日を効力発生日として普通株式2株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い、1株当たり四半期（当期）純利益は、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。

事業別営業概況

(2018年4月1日～2018年9月30日)

天然ガス系化学品事業

主要製品 メタノール、アンモニア、メチルアミン、MMA、多価アルコール 等



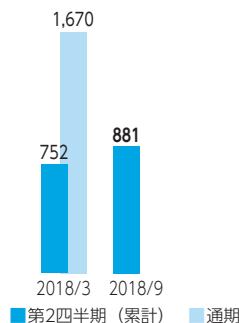
メタノールは、市況が前年同期に比べ大幅に上昇したことなどから、増収増益となりました。

メタノール・アンモニア系化学品は、全般的な販売数量の増加に加え、MMA系製品の市況上昇などもあり増収となりましたが、原料価格が上昇したことなどから、前年同期並みの損益となりました。

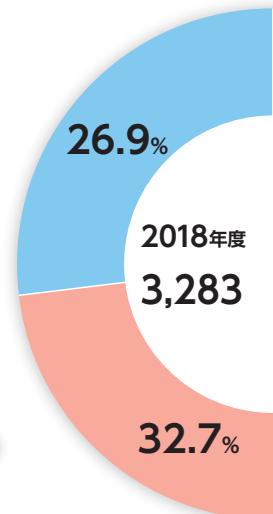
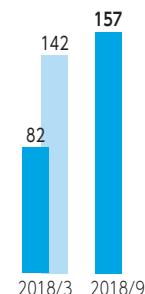
原油その他のエネルギー販売は、原油価格が上昇したものの、原油販売数量が減少したことなどから、前年同期並みの損益となりました。

以上の結果、売上高881億円（前年同期比128億円増（17.1%増））、営業利益32億円（前年同期比14億円増（79.6%増））となりました。また、海外メタノール生産会社を中心とする持分法利益を126億円計上した結果、経常利益は157億円（前年同期比74億円増（89.9%増））となりました。

売上高 (単位:億円)



経常利益 (単位:億円)



芳香族化学品事業

主要製品 メタキシレンジアミン、MXナイロン、芳香族アルデヒド、発泡プラスチック 等



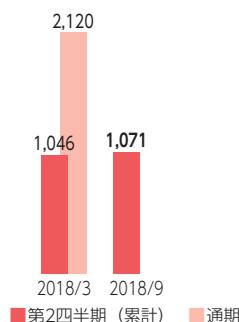
特殊芳香族化学品は、原燃料価格の上昇があったものの、メタキシレンジアミンや芳香族アルデヒドの販売が堅調に推移したことなどから、増収増益となりました。

汎用芳香族化学品は、原燃料高による採算悪化に加え、高純度インフタル酸の市況下落もあり、減益となりました。

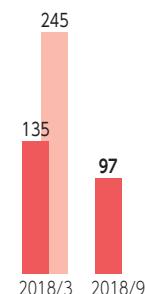
発泡プラスチック事業は、原燃料価格の上昇などにより減益となりました。

以上の結果、売上高1,071億円（前年同期比24億円増（2.4%増））、営業利益101億円（前年同期比37億円減（27.2%減））、経常利益97億円（前年同期比37億円減（27.8%減））となりました。

売上高 (単位:億円)



経常利益 (単位:億円)



機能化学品事業

主要製品 過酸化水素、電子工業用薬品、ポリカーボネート樹脂、ポリアセタール樹脂 等

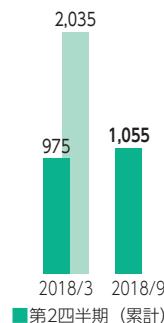


無機化学品は、販売数量の増加により売上高は増加したものの、半導体・液晶向け薬液の競争環境の激化などにより、減益となりました。

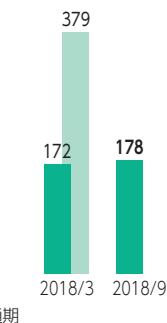
エンジニアリングプラスチックは、フラットパネルディスプレイ向けフィルムの販売数量の減少やポリアセタールの原料価格上昇があったものの、スマートフォンのカメラレンズ向け等に使用される特殊ポリカーボネートの販売数量の増加やポリカーボネートの市況が前年同期を上回ったこともあり、増収増益となりました。

以上の結果、売上高1,055億円（前年同期比80億円増（8.2%増））、営業利益141億円（前年同期比7億円増（5.6%増））となりました。また、エンジニアリングプラスチック関連会社を中心とする持分法利益を41億円計上した結果、経常利益は178億円（前年同期比6億円増（3.8%増））となりました。

売上高 (単位:億円)



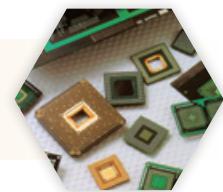
経常利益 (単位:億円)



第2四半期
累計売上高
32.2%
億円
8.3%

特殊機能材事業

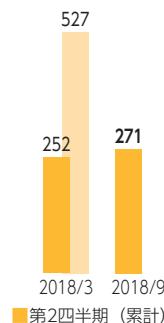
主要製品 プリント配線板用材料、脱酸素剤 等



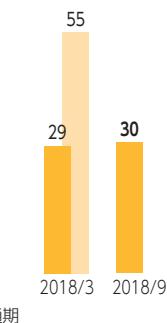
電子材料は、主力の半導体パッケージ用BT材料の販売数量がメモリー向けなどを中心に堅調に推移し、増収増益となりました。「エージレス®」等の脱酸素剤は、国内食品市場における競争や海外顧客の在庫調整の影響等により、減益となりました。

以上の結果、売上高271億円（前年同期比19億円増（7.7%増））、営業利益25億円（前年同期比4億円増（23.7%増））となりました。また、持分法利益を4億円計上した結果、経常利益は30億円（前年同期比0億円増（2.8%増））となりました。

売上高 (単位:億円)



経常利益 (単位:億円)



トピックス

三菱ガス化学記念財団設立

「化学にもとづく幅広い価値の創造を通じて、社会の発展と調和に貢献する」という当社の理念に基づき、持続可能な社会を実現するための一助をなすことを目的として、「一般財団法人 三菱ガス化学記念財団」を設立し、10月1日から事業を開始いたしました。

当財団は、当社が「高屈折率・低複屈折特殊ポリカーボネート樹脂の開発」により「市村産業賞 本賞」を受賞したことを記念し、また、当社が2021年10月1日に創立50周年を迎えることからその記念事業の一環として設立したものです。

当初は、日本の大学・大学院に在籍する化学、化学工学等の研究を志す有為な留学生を中心に奨学金支給事業を行ってまいります。早期に公益認定を受けて研究助成事業にも活動範囲を広げていく予定です。

詳細につきましては、当財団ホームページをご覧ください。

<https://www.mgc.co.jp/foundation/>



化学の知見を生かして、「工場野菜生産事業」に参入

株式会社ファームシップとともに工場野菜の生産・販売事業を行う合弁会社「MGCファーマックス」を設立し、国内最大規模となる完全人工光型植物工場を運営することを決定いたしました。

合弁会社では、当社が化学品の製造プロセスで培った環境制御のノウハウの活用等により、安全・安心に徹底してこだわった野菜を、市場ニーズに即応して計画的・効率的に生産し、消費者にお届けしてまいります。

<内観イメージ>



「完全人工光型植物工場」とは？

従来の畑地栽培やハウス栽培とは異なり、施設内で植物の生長に必要な光、温湿度、二酸化炭素濃度、水分、栄養分等の環境条件を制御しながら、植物を栽培する施設です。省資源で、かつ天候に左右されることなく安定的に植物を生産することができます。

「BioPQQ™」が欧州委員会から新規食品 (Novel Food) として承認

機能性食品素材「BioPQQ™」が、今年8月に欧州連合 (EU) の欧州委員会より新規食品 (Novel Food) として承認されました。

既に米国、日本では食品素材として認められておりましたが、今後欧州でも販売が可能となります。今年3月にはアンチドーピング認証も取得しており、幅広い分野で事業展開を進めていきます。



「BioPQQ™」(ピロロキノリンキノニナトリウム塩)とは？

酸化還元酵素の補酵素の一つとして1979年に発見された水溶性キノン化合物です。研究結果から、脳機能改善、抗酸化などの機能が確認され、認識能力の維持に効果を持つことが認められており、主に高齢者に向けたサプリメントや食品原料として展開しております。また、細胞内でエネルギーを作り出す器官である「ミトコンドリア」を増やし、機能を高める作用を有するため、エナジー系サプリメントとしても活用されています。

ご案内

「コーポレートレポート2018」を発行

当社へのご理解をより深めていただくため、今年度より財務情報、非財務情報を一冊にまとめた「コーポレートレポート2018」を発行することといたしました。新中期経営計画、成長戦略、CSR/ESG情報、財務情報などを取りまとめて記載しております。当社ウェブサイト (<https://www.mgc.co.jp/corporate/report.html>) に掲載しておりますので、ぜひご一読ください。



連結財務諸表

連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期 (2018年9月30日現在)	前期 (2018年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	381,490	384,249
現金及び預金	88,905	101,090
受取手形及び売掛金	166,367	165,606
有価証券	135	121
たな卸資産	112,361	103,753
その他	13,720	13,677
固定資産	420,187	401,437
有形固定資産	224,235	220,717
建物及び構築物	80,240	80,823
機械装置及び運搬具	78,477	81,359
その他	65,517	58,535
無形固定資産	9,091	8,411
投資その他の資産	186,859	172,308
投資有価証券	176,103	161,391
その他	10,756	10,916
① 資産合計	801,677	785,687

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期 (2018年9月30日現在)	前期 (2018年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	188,340	206,835
支払手形及び買掛金	86,351	88,720
短期借入金	57,352	71,155
その他	44,635	46,959
固定負債	61,311	59,707
社債	10,000	10,000
長期借入金	24,942	25,328
その他	26,368	24,378
② 負債合計	249,651	266,543
(純資産の部)		
株主資本	486,169	455,616
資本金	41,970	41,970
資本剰余金	34,649	34,578
利益剰余金	429,476	399,033
自己株式	△19,927	△19,966
その他の包括利益累計額	14,010	11,747
その他有価証券評価差額金	16,918	17,261
為替換算調整勘定	△4,696	△7,614
その他	1,788	2,100
非支配株主持分	51,845	51,780
③ 純資産合計	552,025	519,144
負債・純資産合計	801,677	785,687

■ 総資産／純資産



① 資産合計

流動資産は、現金及び預金の減少により減少しました。
固定資産は、投資有価証券の増加により増加しました。

② 負債合計

流動負債は、短期借入金が減少したことなどにより減少しました。
固定負債は、引当金が増加したことなどにより増加しました。

③ 純資産合計

親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が増加したことなどから、増加しました。

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期(累計) (2018年4月1日から 9月30日まで)	前第2四半期(累計) (2017年4月1日から 9月30日まで)
4 売上高	328,376	302,943
売上原価	252,451	227,300
販売費及び一般管理費	46,974	45,375
5 営業利益	28,950	30,267
営業外収益	20,777	14,475
営業外費用	3,195	2,734
6 経常利益	46,532	42,008
特別利益	1,573	893
特別損失	1,005	511
税金等調整前四半期純利益	47,101	42,391
法人税等	7,129	4,154
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,052	2,783
親会社株主に帰属する四半期純利益	37,919	35,453

4 売上高

メタノールの市況が依然として高い水準を維持したことや、販売数量が全体として堅調に推移したことなどから、増収となりました。

5 営業利益

ポリカーボネートの市況が前年同期を上回ったほか、特殊ポリカーボネートやBT材料の販売数量も増加しましたが、発泡プラスチック事業における原燃料価格の上昇や高純度イソフタル酸の市況下落などにより、減益となりました。

6 経常利益

海外メタノール生産会社およびエンジニアリングプラスチックス関連会社に係る持分法利益が増加したことなどにより、増益となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期(累計) (2018年4月1日から 9月30日まで)	前第2四半期(累計) (2017年4月1日から 9月30日まで)
税金等調整前四半期純利益	47,101	42,391
減価償却費	13,542	13,157
持分法による投資利益	△17,270	△10,499
持分法適用会社からの 配当金の受取額	7,188	10,990
運転資金等	△15,967	△10,959
法人税等の支払額または還付額	△3,577	△3,161
営業活動によるキャッシュ・フロー	31,016	41,919
設備投資資金等	△18,225	△16,944
投融資資金等	△1,009	219
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,235	△16,725
借入金・社債増減額等	△16,059	△16,404
自己株式の取得による支出	△3	△5
配当金支払額	△7,476	△4,747
財務活動によるキャッシュ・フロー	△23,539	△21,157
現金及び現金同等物に係る換算差額	760	28
現金及び現金同等物の増減額	△10,998	4,065
現金及び現金同等物の期首残高	90,304	67,177
現金及び現金同等物の四半期末残高	79,306	71,242

株式の概要

(2018年9月30日現在)

発行可能株式総数 492,428,000株

発行済株式の総数 231,739,199株

株主数 20,273名

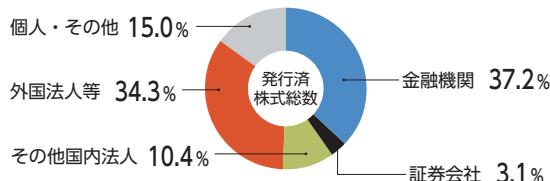
上場取引所 東京証券取引所第一部 (証券コード：4182)

大株主

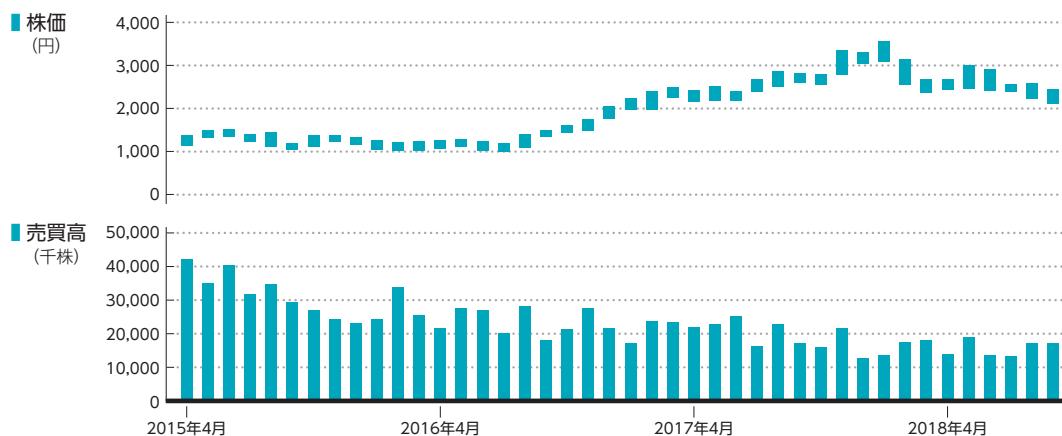
株主名	持株数 (千株)	出資比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	10,570	4.9%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	9,590	4.5%
明治安田生命保険相互会社	8,797	4.1%
日本生命保険相互会社	8,795	4.1%
農林中央金庫	5,026	2.4%
AGC株式会社	4,835	2.3%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	3,647	1.7%
株式会社横浜銀行	3,085	1.4%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	3,002	1.4%
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	2,997	1.4%

(注) 1. 当社は自己株式を18,097千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 出資比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



株価等の状況



※当社は、2016年10月1日を効力発生日として、普通株式2株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い、上記のグラフの2016年9月以前における株価および売買高は、2015年4月の月初に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しております。

会社概要

(2018年9月30日現在)

社 名 三菱ガス化学株式会社
(登記商号：三菱瓦斯化学株式会社)
MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

資 本 金 419億7千万円

従 業 員 数 2,357名 (連結：8,152名)

本 社 〒100-8324
所 在 地 東京都千代田区丸の内二丁目5番2号 三菱ビル

事 業 所 営業所：大阪支店

研究所：東京テクノパーク (東京研究所、
MGC分析センター)、新潟研究所、
平塚研究所

創 業 大正7 (1918) 年1月15日

工 場：新潟工場、水島工場、四日市工場、
山北工場、鹿島工場

設 立 昭和26 (1951) 年4月21日

役 員	代表取締役 会長	酒井和夫	取締役 常務執行役員	有吉伸久	執行役員	大塚裕之	監査役 社外 非常勤	木村高志
	代表取締役 社長	倉井敏磨	取締役	谷川和生	執行役員	加藤賢治	監査役 社外 非常勤	杉田克彦
	代表取締役 専務執行役員	稲政顕次	取締役	佐藤次雄	執行役員	茅野義弘	監査役 社外 非常勤	河 邦雄
	代表取締役 専務執行役員	佐藤康弘			執行役員	長岡成之	監査役 社外 非常勤	松山保臣
	取締役 常務執行役員	城野正博	執行役員	高木俊哉	執行役員	寺岡康郎		
	取締役 常務執行役員	藤井政志	執行役員	平本欣司	執行役員	柿木良一		
	取締役 常務執行役員	吉田 晋	執行役員	藤井弘也	執行役員	木暮直毅		
	取締役 常務執行役員	水上政道	執行役員	大久保知彦	執行役員	川端嗣二		
	取締役 常務執行役員	稻荷雅人	執行役員	太田貴夫	執行役員	白井一志		

連結子会社 (70社)

木江ターミナル株式会社
株式会社東京商会
株式会社日本ファインケム
菱江化学株式会社
MGCエレクトロテクノ株式会社
MGC PURE CHEMICALS AMERICA, INC.
MGCフィルシート株式会社
THAI POLYACETAL CO., LTD.
MITSUBISHI GAS CHEMICAL AMERICA, INC.
菱陽商事株式会社

MITSUBISHI GAS CHEMICAL SINGAPORE PTE. LTD.
三永純化株式会社
三菱瓦斯化学工程塑料 (上海) 有限公司
巨菱精密化学股份有限公司
MGC PURE CHEMICALS SINGAPORE PTE. LTD.
株式会社JSP
永和化成工業株式会社
海洋運輸株式会社
米沢ダイヤエレクトロニクス株式会社
MGC ADVANCED POLYMERS, INC.

他 50社

株式についてのご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
同総会権利行使株主確定日	3月31日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL： https://www.mgc.co.jp/ir/publicinfo.html
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

ホームページではさまざまな
情報をご覧いただけます。



<https://www.mgc.co.jp/>

株式に関するマイナンバー制度のご案内

マイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となりますため、株主様から、お取引の証券会社等へご提供いただく必要がございます。

【株式関係業務におけるマイナンバーの利用】

法令に定められたとおり、株式に係る各種支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出します。

【マイナンバーのご提供に関するお問い合わせ先】

- 1) 証券会社の口座にて株式を管理されている株主様
…お取引の証券会社にお申し出ください。
- 2) 証券会社とのお取引がない株主様
…三菱UFJ信託銀行にお申し出ください。
連絡先：右記2) ご参照

株式に関するお問い合わせ先

- 1) 証券会社等の口座に記録された株式に関するお問い合わせ先：
お取引の証券会社等にお問い合わせください。
(注) なお、支払期間経過後の配当金支払、郵送物の発送に関するご照会については、下記の特別口座の場合の連絡先をご利用ください。
- 2) 特別口座に記録された株式に関するお問い合わせ先：
三菱UFJ信託銀行株式会社(特別口座管理機関)にお問い合わせください。

連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

特別口座に関する手続用紙

インターネットによるダウンロードURL：
<https://www.tr.mufj.jp/daikou/>

